

# 「見える化」マニュアル

～「民生委員・児童委員活動の見える化」プロジェクト～



「見える化」プロジェクトを  
府HPでチェック！



2019年4月  
大阪府 地域福祉課

©2014 大阪府もずやん

# 目次

1 「民生委員・児童委員活動の見える化」プロジェクトとは	1
2 実施ポイント	2
(1) 受入体制の整備	3
(2) 体験希望者の募集	4
(3) リスクの管理	5
3 プロジェクトの効果	6

## (参考資料) 取組実績

プロジェクト誕生の経緯	8
プロジェクトの特徴	9
プログラムの内容	10
事務フロー	13
一緒に取り組んだ大学・市町村	14
3年間の効果検証	16
プロジェクトに対する声	17
課題と方向性など	18

# 1 「民生委員・児童委員活動の見える化」プロジェクトとは

- 大阪府と大学、市町村等が協力して、平成28年度から3年間実施した取組。
- 府内市町村の共通課題である、民生委員・児童委員※の『担い手不足』に対する打開策の一つとして実施。  
※以下「民生委員」という。
- 民生委員（活動）を知らない大学生に、地域福祉を実地で学んでもらう。フリーペーパーなどを作成し、民生委員活動をPR！

府内市町村の共通課題

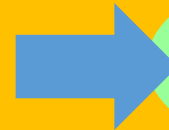
**担い手不足**

**実地で学ぶ！ 活動をPR！**

**民生委員活動の「見える化」**

## 2 実施ポイント

(1) 受入体制の整備



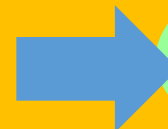
関係者・団体  
で準備！

(2) 体験希望者の募集



様々な世代に知って  
もらいたい！

(3) リスクの管理



事故・損害や  
情報漏洩の対策

これらが整えば、実施可能です。

## 2 実施ポイント

### (1) 受入体制の整備（関係者・団体で準備）

はじめに

体験希望者を受け入れるにあたり、関係者・団体で準備を行う必要があります。

主な準備内容

#### □ 体験内容の決定・役割分担

- 体験してもらう活動（サロン等）を関係者・団体間で調整します。
- 関係者で、受入にかかる役割を分担します。
- 体験希望者に応じた、体験内容等の調整が必要です。

体験希望者により、体験できる時間帯や内容等の条件が異なる可能性があります。  
ex) 授業の一環で参加する小学生、参加が休日中心となる社会人等

## 2 実施ポイント

### (2) 体験希望者の募集（地域実情に応じて進める）

#### 体験希望者の募り方

#### □学校や企業など、“地域の社会資源”との連携

- 地域の社会資源（学校、企業等）を通じた募集が有効です。
- 地域実情に合わせ、取り組みやすいところから進め、実績を積みながら、体験希望者の受入対象を広げていきます。

年齢・性別等を限定せず、  
様々な人を対象にするのが理想！

よりよい地域にするのは、  
その地域に暮らす住民等

## 2 実施ポイント

### (3) リスクの管理（安心して実施する）

体験中の  
事故や損害

体験中に知り得た  
個人情報等の漏洩

#### 対処方法

#### □ 保険の加入

- 既存の保険（活動・行事に係る保険等）を確認、適宜保険に加入。

#### □ 秘密保持の誓約書 等

- 参加者が体験中に知り得た情報を漏洩しないよう、誓約書等を提出。
- 必要に応じ、個人情報等に触れない活動内容に限定する等の工夫も。

### 3 プロジェクトの効果

#### 好感度アップ

民生委員活動の意義を学ぶだけでなく、地域への愛着が生まれ、好感度アップ。

#### 地域活動の活性化

地域活動に新しい風を吹き込むことで地域活動に刺激を与え、活性化につなぐ。

#### “我が事”意識の醸成

参加者が、自分の住む地域の課題を他人事ではなく我が事のように考えるきっかけに。



(参考資料)

# 取組実績

「民生委員・児童委員活動の見える化」プロジェクト  
(2016～2018年度実施)

# プロジェクト誕生の経緯

「民生委員・児童委員制度のあり方検討部会」※の提言

府民1,000人を対象としたアンケート結果

民生委員になってもよいと回答した人の数

多	年齢が20代以下の人	>	50代以上の人	少
	民生委員を知っている人	>	知らない人	
	民生委員に良いイメージを持つ人	>	悪いイメージを持つ人	

アンケート結果等を踏まえ

若い世代をターゲットに以下の取組を推進

民生委員活動に触れる機会の提供

民生委員活動の内容や魅力を広くPR

本プロジェクトの誕生

※ 2015年10月、大阪府地域福祉推進審議会 地域福祉支援計画推進分科会に設置した部会（現在は廃止）

詳しくは府HPで：<http://www.pref.osaka.lg.jp/chiiikifukushi/chiiikifukusingikai/arikata.html>

# プロジェクトの特徴

- 府全体の共通課題（担い手不足）に対する新たなアプローチで、民生委員の認知度向上と将来の担い手確保をめざす。  
（情報発信力の高い若者に、民生委員活動の体験と活動のPR）
- 全国初の取組として、2016年度にモデル実施。  
2017～2018年度は、知事重点事業として本格実施。
- 民生委員の理解促進と認知度向上をめざす情報発信を意識したプログラム。  
地域活動への参加意欲を促す、サポーター認定証の交付。  
（単なる体験で終わらない研修構成と、地域活動への参加意欲醸成）

4 部 構 成	① 事前研修	地域福祉、個人情報取り扱いなど基礎知識の習得
	② インターンシップ	様々な民生委員活動を体験
	③ 事後研修	インターンシップを振り返り、PRコンテンツ等を作成
	④ 活動報告会	PRコンテンツ等の発表と認定証の交付

# プログラムの内容

## ① 事前研修

項目	内容
オリエンテーション	プロジェクトの趣旨や民生委員制度等について学ぶ
地域福祉の基礎知識	大阪の地域福祉に関する基礎知識を学ぶ
個人情報の取扱い	個人情報の重要性、取扱いを学ぶ
コミュニケーションスキル	インターンシップにおけるコミュニケーションスキルを学ぶ
効果的なPR手法	認知度向上を図る効果的な情報発信手法を学ぶ

## ② インターンシップ

項目	内容
実体験を聴取	民生委員から活動内容や困難事例等の実体験をヒアリング、意見交換
民生委員活動を実践	以下を体験し、民生委員活動の実態や課題、魅力を学ぶ ① 地域住民の見守り支援（高齢者の安否確認等） ② 会議への参加（定例会議等） ③ 地域活動への協力（高齢者サロン等）

# プログラムの内容

## インターンシップの活動例

時 間	活動項目	場 所	具体的な内容
[第1日目] 3時間			
13:00~14:30	オリエンテーション	市役所	▶概況説明（受入地区の概要、民生委員の現状等）
14:30~16:00	座談会	市役所	▶民生委員・児童委員へのヒアリング・意見交換
[第2日目] 3時間			
9:00~12:00	子育てサロン	保育園	▶子育てサロンの運営補助（準備・片付けを含む）
[第3日目] 5時間（昼食・移動時間除く）			
9:00~15:00	高齢者サロン	〇〇会館	▶高齢者サロンの運営補助（準備・片付けを含む）
[第4日目] 4時間			
10:00~12:00	見守り訪問	〇〇地区	▶独居高齢者等を訪問し、安否確認や情報提供等
13:00~15:00	広報会議	市役所	▶広報誌「民児協▼▼」の編集会議に参加
[第5日目] 5時間			
15:30~20:30	子ども食堂	〇〇会館	▶子ども食堂の運営補助（準備・片付けを含む）

# プログラムの内容

## ③ 事後研修

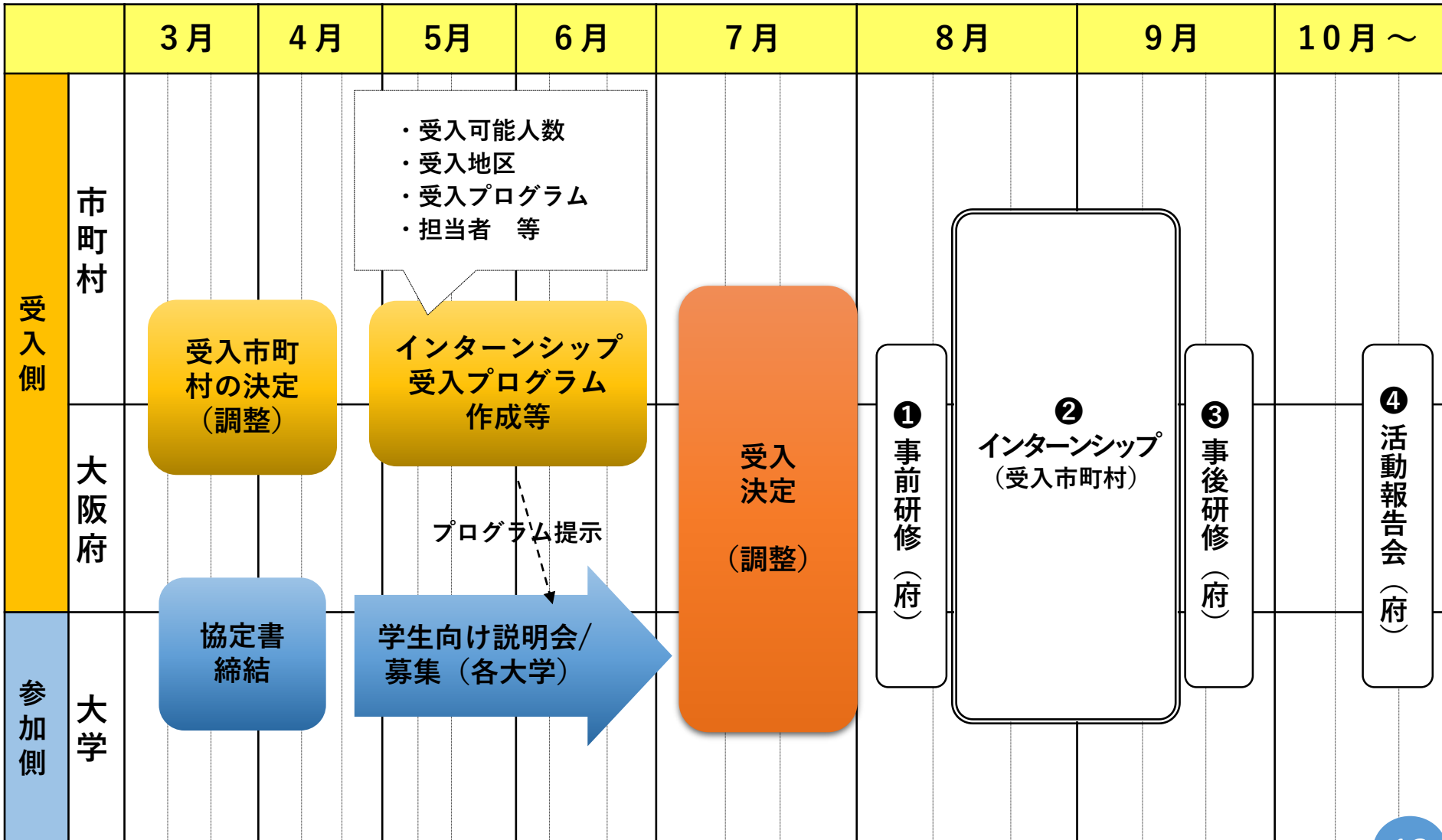
項目		内容
インターンシップを振り返る		④活動報告会の資料（活動報告と施策提案、活動PRコンテンツ）を作成するため、体験した内容を振り返る。
活動報告会資料の作成	活動報告と新たな施策提案	班ごとに、現状や課題・今後の方向性（課題解決の新たな施策等）をまとめ、発表資料を作成する。
	活動PRコンテンツ	認知度向上を図るため、民生委員活動をPRするコンテンツ（フリーペーパーや動画など）を作成する。

## ④ 活動報告会

項目	内容
活動報告	③事後研修で作成した資料を班ごとに発表。その後、来場者等と意見交換。
認定証の交付	「民生委員・児童委員サポーター認定証」を交付

# 事務フロー

👉 大学生の夏期休暇に合わせて実施した大まかな事務の流れ



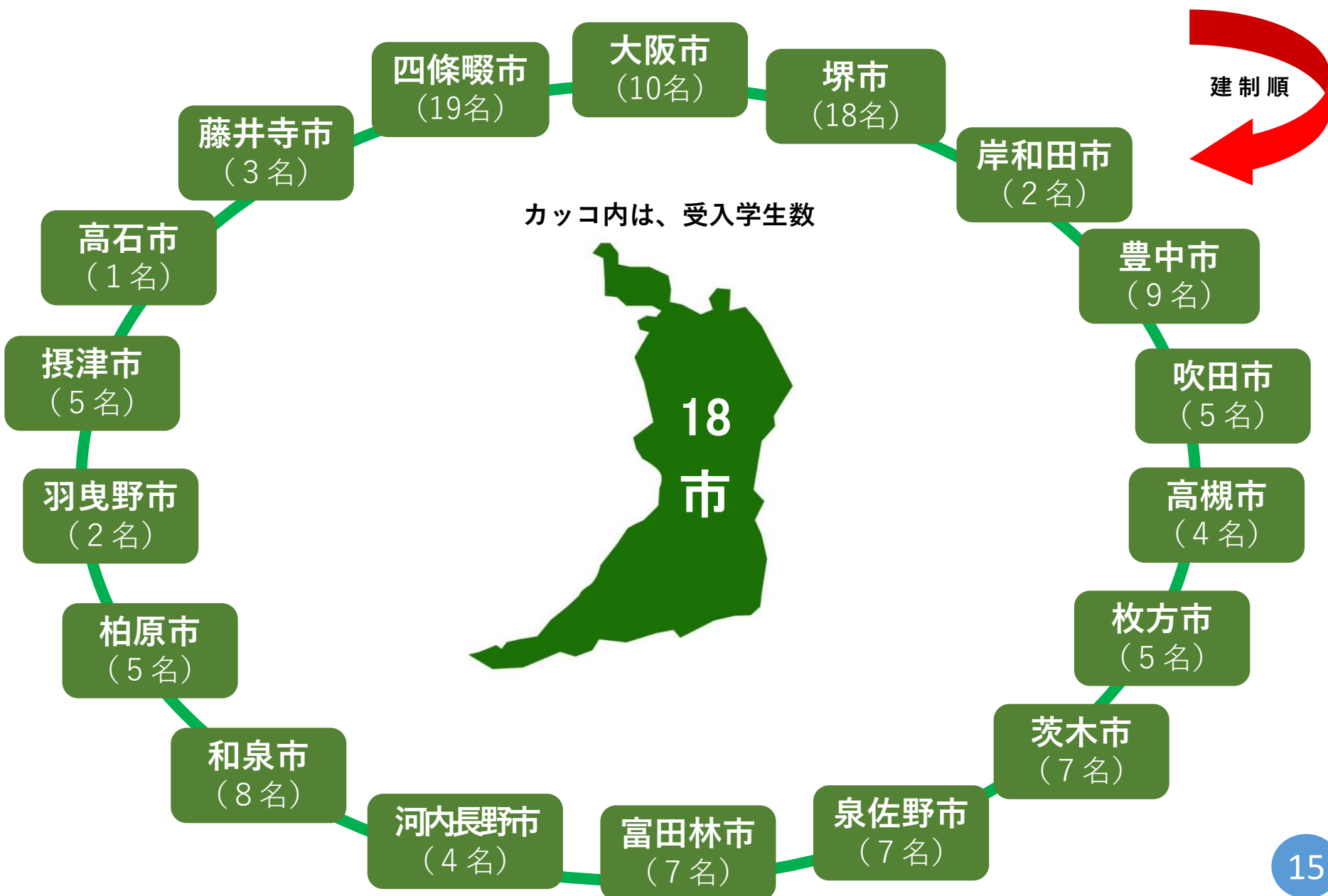
# 一緒に取り組んだ大学

(五十音順)

	大学	対象学部	所在地	延べ参加者数
1	大阪大谷大学	全学部	富田林市	4人
2	大阪教育大学	全学部	柏原市	4人
3	大阪市立大学	生活科学部	大阪市	7人
4	大阪大学	人間科学部	吹田市	5人
5	大阪人間科学大学	人間科学部	摂津市	5人
6	大阪府立大学	地域保健学域	堺市	26人
7	関西大学	人間健康学部	堺市	8人
8	関西福祉科学大学	全学部	柏原市	8人
9	関西学院大学	人間福祉学部	兵庫県西宮市	22人
10	四天王寺大学	全学部	羽曳野市	2人
11	種智院大学	全学部	京都府京都市	1人
12	桃山学院大学	社会学部	和泉市	17人
13	立命館大学	全学部	茨木市等	12人
			合計	121人



# 一緒に取り組んだ市町村



# 3年間の効果検証



- 延べ121名の大学生が民生委員活動を体験
- 認知度向上に向けたPRコンテンツを多数作成  
(フリーペーパー：15、ポスター：3、動画：1)

## □ アンケート結果から見えた、プロジェクトの実施効果

### (1) 活動への参加意欲向上

回答者※の86.2%が「今後も民生委員活動や地域活動に参加したい」と回答！

★プロジェクト終了後も、受入地区で活動を続ける好事例も複数あり。

### (2) 民生委員の好感度UP

回答者の97.5%が「民生委員への意識」が変化！

(学生の声：地域住民と深く結びついていることに驚いた。素敵な活動だと思った。等)

※回答者数 80名 (回収率 66.1%)

# プロジェクトに対する声を一部紹介



- 若い人に民生委員の活動を理解してもらえるのは嬉しいことだ。
- 自分たちの活動を見直す機会になり、今後の励みとなった。
- 大学生と高齢者の交わりで新鮮な空気が生まれた。
- 先入観のない斬新な発想は、広報誌作成の参考になった。

民生委員

- 行政にはない学生目線のユニークな発想ばかり。
- 受け入れる側としても、充実感があった。
- 地域の方々に喜んでもらったのがよかった。
- 大学生だけでない若者や、社会人もぜひ対象に。

市役所・社協等

- 自分の地域をもっと好きになった。
- 自分自身の生き方や価値観についても見つめ直すことができた。
- 自分にも出来る事を探して実行しなければ、という思いが生まれた。
- 授業や教科書では学べない、貴重な体験ができた。
- 人とのつながりや社会の成り立ち等を目の当たりにできた。
- 将来、民生委員になってみたいと思った。
- 大変だったが、「やりがい」といった無報酬を覆すプラス要因を実感。
- 地域の清掃活動を、自身も個人で始めるようになった。

参加大学生

# 課題と方向性など

## 検証結果

地域活動の担い手確保につながる  
効果が期待できる手法を確立

## 課題

- ・ 参加者が地域住民でないため、委員の欠員を埋められない。
- ・ 体験地域での活動を継続してもらえにくい。
- ・ 認知度向上の効果把握が難しい。

## 方向性

- こうした課題を踏まえ、各地域において地域実情に沿った「見える化」などの取組を進めることが効果的。
- また、“担い手確保（地域活動を含む）”を目的とし、地域に根差したインターンシップ（体験）に特化した取組が有効。（大阪府としても、可能な限り取組の推進を支援）